

萬葉集略解

八

柳田文庫

文庫11

A 104

12



林氏家藏

18 12015



萬葉集卷第八

春雜歌一首

志貴皇子權御歌一首

一首尾張連歌二首名闕

一首山部宿禰赤人歌四首

一首并短歌

一首柳歌二首

一首大伴宿禰三林梅歌一首

一首大伴宿禰村上梅歌二首

一首大伴宿禰河麻呂歌一首

一首大伴宿禰家持鸞歌一首

一首大伴宿禰丹比屋主真人歌一首

一首丹比真人乙麻呂哥一首

一首高田女王歌一首

一首高安之

之真子也

文庫11
A104
12



伴坂上郎女歌一首○大伴宿祢家持春鳩歌一首○大伴坂上郎女歌一首

春相聞

大伴宿祢家持贈坂上家之大嬢歌一首○大伴田村家

毛大嬢與妹坂上大嬢歌一首毛之○大伴宿祢坂上郎女歌

一首宿祢の下家持贈の三字落す○笠女郎贈大伴家持歌一首○紀女郎

歌一首名曰小廣

天平五年癸酉

春閏三月笠朝臣金村贈入唐使歌一首并短歌○藤原

朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首娘子和歌○厚見王贈

久米女郎歌一首 久米女郎報贈歌一首○紀女郎贈

大伴宿祢家持歌二首 大伴家持贈和歌二首○大伴

家持贈坂上大嬢歌一首

夏雜歌

藤原夫人歌一首○志貴皇子御歌一首○弓削皇子御

歌一首○小治田廣瀨王霍公鳥歌一首○沙彌霍公鳥

歌一首沙彌上三方の字と存せり○刀理宣令歌一首○山部宿禰赤人

歌一首○式部大輔石上堅魚朝臣歌一首 太宰帥大

伴卿和歌一首○大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首

○大伴坂上郎女霍公鳥歌一首○小治田朝臣廣耳歌

一首○大伴家持霍公鳥歌一首○同家持橘歌一首○

同家持晚蟬歌一首○大伴書持歌二首○大伴清繩歌

一首○庵君諸立歌一首○大伴坂上郎女歌一首○大

伴家持唐棣花歌一首○同家持恨霍公鳥晚喧歌二首

○同家持權霍公鳥歌一首○同家持惜橘花歌一首○
 同家持霍公鳥歌一首○同家持雨日聞霍公鳥喧歌一
 首○橘歌一首遊行女婦○大伴村上橘歌一首○大伴
 家持霍公鳥歌二首○同家持石竹花歌一首○惜不登
 筑波山歌一首惜八恨
の語
 夏相聞
 大伴坂上郎女歌一首○大伴四繩宴吟歌一首○大伴
 坂上郎女歌一首○小治田朝臣廣耳歌一首○大伴坂
 上郎女歌一首○紀朝臣豐河歌一首○高安歌一首○
 大神女郎贈大伴家持歌一首○大伴田村大嬢與妹坂
 上大嬢歌一首○大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌一首
 并短歌○同家持贈紀女郎歌一首

秋雜歌
 同家持贈紀女郎歌一首○同家持林林三首
 同家持內舍入歌四首

岡本天皇御製哥一首○大津皇子御歌一首○穗積皇
 子御歌二首今一首ハ
の誤○但馬皇子御歌一首云子部王作
の誤○山部王惜秋葉歌一首○長屋王歌一首○山上
 憶良七夕歌十二首○太宰諸卿大夫并官人等宴筑前
 國蘆城驛家歌二首○笠朝臣金村伊香山作歌二首持
誤○石川朝臣老夫歌一首○藤原宇合卿歌一首○
 縁達帥歌師子化○山上臣憶良詠秋野花歌二首○天
 皇御製歌二首○太宰帥大伴卿歌二首○三原王歌一
 首○湯原王七夕歌二首○市原王七夕歌一首○藤原
 八束歌一首か文氏の下
朝臣のま○大伴坂上郎女晚芽子歌一首○
 典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿祢稻公跡見庄

作歌一首○湯原王鳴鹿歌一首○市原王歌一首○湯
原王蟋蟀歌一首○衛門大尉大伴宿祢稻公歌一首
大伴家持和歌一首○安貴王歌一首○忌部首黑麻呂歌
一首○故鄉豐浦寺之尼私房宴歌三首○大伴坂上郎女
跡見田庄作歌二首○巫部麻蕪娘女鴈歌一首 大伴
家持和歌一首○日置長枝娘子歌一首 大伴家持和
歌一首○同家持秋歌四首○藤原朝臣八束歌二首○
大伴家持白露歌一首○大伴利上歌一首 利上村の邊 ○右大
臣橘家宴歌七首○橘宿祢奈良丸結集宴歌十一首 作
者十人 命又九人 麻呂也 ○大伴坂上郎女竹田庄作歌二首○佛前
唱歌一首○大伴宿祢像見歌一首○大伴宿祢家持到
娘子門作歌一首○同家持秋歌三首○内舍人石川朝

秋相聞
臣廣成歌二首○大伴宿祢家持鹿鳴歌二首○大原真
人合城傷惜寧樂故鄉歌一首○大伴宿祢家持歌一首
額田王思近江天皇作歌一首 鏡王女作歌一首○弓
削皇子御歌一首 王子 ○丹比真人歌一首 名淵 ○丹生
女王贈太宰帥大伴卿歌一首○笠縫女王歌一首 六人 部親
王之女母曰 ○石川賀條女郎歌一首○賀茂女王歌一
甲形皇女 首 本又子長屋王之女母 曰阿倍朝臣也 ○遠江守櫻井王奉 天皇歌一首
天皇賜報和御歌一首○笠女郎贈大伴宿祢家持歌一
首○山口女王賜大伴宿祢家持歌一首○湯原王贈娘
子歌一首○大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首
大伴坂上郎女和歌一首○巫部麻蕪娘子歌一首○大伴

田村大嬢與妹坂上大嬢歌二首村大嬢○坂上大嬢秋稻
 獲贈大伴宿祢家持歌一首 大伴宿祢家持報贈歌一
 首○又報脫著身衣贈家持歌一首晚大嬢○大伴宿祢家
 持攀非時藤花并芽子黃葉二物贈坂上大嬢歌二首○
 同家持贈坂上大嬢歌一首并短歌○同家持贈安倍女
 郎秋歌一首○同家持後久邇京贈留寧樂宅坂上大嬢
 歌一首○或者贈尺歌二首 尺作頭句并大伴宿祢家
 持所誂尺續末句和一首本女和上等字
多和下歌字あり

冬雜歌

舍人娘子雪歌一首○太上天皇御製歌一首○天皇御製歌
 一首○太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首同卿梅
 歌一首○角朝臣廣辯雪梅歌一首辨本女
辨本化○安倍朝臣奧

道雪歌一首○若櫻部朝臣君足雪歌一首○三野連石
 守梅歌一首○巨勢朝臣宿奈麻呂雪歌一首○小治田
 朝臣東麻呂雪歌一首○忌部首黑麻呂雪歌一首○紀
 少鹿女郎梅歌一首○大伴宿祢家持雪梅歌一首○御
 在西池邊肆宴歌一首○大伴坂上郎女歌一首○池田
 廣津娘子梅歌一首○縣犬養娘子依梅發思哥一首○
 大伴坂上郎女雪歌一首

冬相聞

三國真人人足歌一首○大伴坂上郎女歌一首 和歌
 一首○藤原后奉 天皇御歌一首○池田廣津娘子歌
 一首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○紀少鹿女郎歌一
 首○大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首○大伴宿祢

神奈備乃伊波瀬乃杜之喚子鳥痛莫鳴吾戀益
かみかしのいはせのわきのよごとをいひかきしわがこひ

いふ世大和乃子も改まふ字後子杜毛利と

駿河采女歌一首

沫雪香薄太禮爾寒登見左右二流倍散波何物花其毛
あこゆきのばりれよつるもみるまでにたぐりへちるはなよのたまぞも

ほをのののを倍べしちぐりへちるはなよとありて若千きりも
もあゆむは極み散るがうらるらん人もも又あねのうれゆほを流
とあり物のうらるのうら

尾張連歌二首 名關

春山之開乃字為黒雨春菜採妹之白紐見九四與四門
たるやまのさきのたをよにわのなつむいもがたつひらぶらうりあも

半為黒
雨ノ字鳥
加

春のま半為黒雨鳥里の語も春菜は花咲乎遠里とありて
字もるべしといふ字後子端曲岸也又乃太平里嶼山豊貞山乃採妹
手利又井大平利とありて春のたをり山の語のたをり
れは春を説く後よき

打麻春來良之山際遠木末乃開往見者

うちらなひくはるまきこらやまのまのよきこねのさかむら

しらさひく柳約まきなるの句春遊とありて今甲まき

中納言阿倍廣庭卿歌一首

去年春伊許自而植之吾屋外之若樹梅者花咲爾家里
こぞのはるいりてうらわのわのわのうめはちまきさかひけり

伊ハ後後こハ根こりてうらわく振動とありて天香山之五百津真賢

木多根許士余許士而く

山部宿禰赤人歌四首

春野雨須美禮椽雨等来師吾曾野乎奈都可之美一夜宿
二来

はるのふもみれつみあしわれぞのをなつりみいよぬふける

董つむ衣摺ん料うえし和名抄董蒙俗謂之董蒙

董つむ衣摺ん料うえし和名抄董蒙俗謂之董蒙

足比奇乃山櫻花日並而如是開有者甚感目夜裳

あひきのやまさくはなひたつてかくさきいふいよこひめや

孝子歌つと物うらうらまをいへはとくもさるるりつと

吾勢子爾今見常念之梅花其十方不所見雪乃零有者

わがせこみせんとおひひうめのみさるるれいみえりゆきのふれい

標之標二

わがせこみ友と

後明日者春菜将採跡標之野雨昨日毛今日毛雪波布利

管

あまよりわつまつまんと志やぬまきのくくもゆきはふらつ

まをりやに地ろるあうらひまをるゆん

草香山歌一首 古多記雄畧條久佐加弁のころのふま河内國河内郡

忍照 難波字過而 打麻 草香乃山字暮晚雨

おしとらわらふをさきさうらふらあひくくまのやまよゆまね

吾越来者 山毛世雨 咲有馬醉木乃不惡 君字

わのこえんこればやまもせよやんるあひびのいこくぬまらみ

何時 往而早将見

いついつあまをさみむ

霞立春日之里梅花山下風雨落許須莫湯目

かすみはるかのののうめはまあこのかせるちうこはさゆ
あまの梅のあはれちがまてくやかきこらうりあこはるん
うりよきこそはのうらふゆをほてあまふれとわしこもん

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

霞立春日里之梅花波奈爾將問常吾念奈久雨

かすみはるかのののうめはまあふじそんとわがわはさへ
なはの物をわてやうそはこいそるの序ん宮まこはるこ
あふこそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

中臣朝臣武良自歌一首

時者今者春雨成跡三雪零遠山邊爾霞多奈婢久

とよいまははるふなちぬこゆきふるともやまのぶよかよそ

雪の降るふくふくはの棚りこ

河邊朝臣東人歌一首

春雨乃敷布零雨高圓山能攪者何如有良武

はるまの志くふふれたのまとのやまのせくういひのふあ

きくはまこそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

大伴宿禰家持鬻歌一首

打霧之雪者零乍然為我二吾宅乃苑爾鬻鳴裳

うちきりゆきはあつ志のちがねがまのそのようふくひ
くらきりのちにはまこそそそそそそそそそそそそそそそ

和企常まそ和我鬻あはれはわがへそよそ

大蔵少輔丹比屋主真人歌一首

難波邊雨人之行禮波後居而春菜採兒乎見之悲也

かみそへまいのゆたればおくれあてわのまつむいふるがかりし
人ハそ時とまといとてしゆれりゆけりふといふことまよ別居くひりまつ
はるとそく情れむ也ハ後まほさうそく例

丹比真人乙麻呂歌一首

目福子屋主真人第二之子也
平神護元年正六位上多治真人乙麻呂授後五位下と云ゆ

霞立野上乃方雨行之可波鷺鳴都春雨成良思

かきみづのへのかきよゆきし
そのへいつつとあれぬのよと地名あはれ

高田女王歌一首

高安之女也
山振之咲有野邊乃都保須美禮此春之雨雨盛奈里鷄利

山振之咲有野邊乃都保須美禮此春之雨雨盛奈里鷄利

やまぎのまきいりのつぼぎみれふのはらのあめはけうりちりたり

まきれい合りたりもれつぼぎみれり

大伴坂上郎女歌一首

風交雪者雖零實雨不成吾宅之梅宇花雨令落莫

かせまやゆきいふるよひふゆもぬわさくのうめををちふちりれ

二の句を法句いふる句句のゆえをよあはれりつとていふ
まよとぬ思はれりといひさうさうなれりつとていふ

まよはあはれりつとていふ

大伴宿禰家持養鳩歌一首

目福子養と春と他とよと云

春野爾安佐留鳩乃妻戀爾已我當乎人爾令知管

たこののよあはれりつとていふ
ちれりつとていふ

晝者咲夜者戀宿合歡木花君耳將見哉和氣佐倍爾見代
ひるはさきよるはつしめぬねむのそまわれのみんやとけきよみよ

和名抄唐韵云楡和名祢布里乃木辨色立成云睦樹字鏡合歡樹楸木祢

夫利洲也まよと人のいり恋宿るまよりかきせと君のいそんやまてハ

解へりし君ハ五言の誤りなりと云ふ一和氣ハ家持とをさし

右折攀合歡花并茅花贈也 茅花ハ三月合歡の花ハ六月にさく

されハ時長き人そハまよ猶せんよめは枝てくもへまるとかむるを

大伴家持贈和歌二首

吾君雨戲奴者戀良思給有茅花字雖喫彌瘦雨夜須

わがきよみよわけはくもらたまひしつをまよとくへいやくせよやち

此わけハ我といふされども紀女弟がまよはくわごとまよとてけし御

しをくいつをまてそをけしつをまよ我といふまよは彼方の戯の詞と

吾妹子之形見乃合歡木者花耳爾咲而盖實爾不成鴨
わきよこのかきみのねむいちまのこまよさきつてくごくみよわくかも

合歡のそ花されがくのめく女らし花のこまよこくみよわくかも

らつしつて

大伴家持贈坂上大嬢歌一首

春霞輕引山乃隔者妹爾不相而月曾經爾來

はるがけみたるびくやまのへわれはらふあふとてつきがへふける

妹ハ大嬢のしとてえおむつのみま

右後久通京贈寧樂宅

夏雜歌

藤原夫人歌

明日香清御原宮御宇天皇之夫人也、字曰大原大刀自、即新田部皇子之母也

孝二、即夫人、天武紀、夫人藤原大臣女、冰上娘生、但馬皇女、次夫人冰上娘、第五百重娘生、新田部皇子、皆此二人の中いづれ也

霍公鳥痛莫鳴汝音乎五月玉爾相貫左右二

ほこきりいづこもきりたつこもきりあつきのまふあへぬもがてふ
これ四月月わくきりもきりあつきのまふあへぬもがてふ
のむハ後命後まきりあつきのまふあへぬもがてふ
とまきりあつきのまふあへぬもがてふ
とまきりあつきのまふあへぬもがてふ

志貴皇子御歌一首

神名火乃磐瀬乃杜之霍公鳥毛無乃岳爾何時來將鳴
かみちのいづせのむりのほこきりあつきのまふあへぬもがてふ

二保

弓削皇子御歌一首

霍公鳥無流國爾毛去而師香其鳴音乎聞者辛苦母
ほこきりあつきのまふあへぬもがてふ

小治田廣瀨王霍公鳥歌一首

霍公鳥音聞小野乃秋風芽開禮也聲之乏寸
ほこきりあつきのまふあへぬもがてふ

今記帝紀持統紀六年二月為留守官、元正紀養老六年正月卒、
けまはし、秋風まきりあつきのまふあへぬもがてふ
のまきりあつきのまふあへぬもがてふ

こわやのみをれいびせみさるるいづこもきけはるあひいづこ

和名抄尔雅注云茅蜩一名蠶比久良之小青蟬也

大伴書持歌二首 家持の弟

我屋戸雨月押照有霍公鳥心有今夜来鳴令響

わがやどよみさおいてれはほるききしるあるこもしきまらふよみせ

おつてれは月押照有と云ふるは十一卷白山月押照れうと云ふる友

の活来たる所よめり

我屋前乃花橘爾霍公鳥今社鳴米友爾相流時

わがやどのをまたちをれはなむききりいまこそなめあはれあへるとは

我友とある時りしはし橋よまなけり

大伴清繩歌一首 繩一本綱也

皆人之待師宇能花雖落奈久霍公鳥吾將忘哉

みるひとのまらしらのをちりぬもなきりわれをれぬ

阿武がもけはけしききりぬゆきさくらのの花を待とまらしちう

大 新らしはるるのやあぬれはほくまのをたれぬ

庵君諸立歌一首

吾背子之屋戸乃橘花子吉美鳴霍公鳥見曾吾来之

わがせこのやどのちぢなをわくとよみあはるききりみまがわがこ

我の背の格とめてるまらしんとせむひてまらしとてせこ友と云ふ

大伴坂上郎女歌一首

霍公鳥痛莫鳴獨居而寐乃不所宿聞者苦毛

わがききりいこもききしるあひのねらぬまきけはるあひいづこ

大伴家持唐棣花歌一首

夏儲而開有波禰受久方乃雨打零者將移香

夏儲而開有波禰受久方乃雨打零者將移香

なまけくさきたるまねぢいかにのあつらふらぶうつろひまんの

なまけくさきたるまねぢいかにのあつらふらぶうつろひまんの

大伴家持恨霍公鳥晚喧歌二首

吾屋前之花橘乎霍公鳥来不喧地雨令落常香

わがやどのちかひのつばきをほりきこまのふりちかひのちかひの

わがやどのちかひのつばきをほりきこまのふりちかひのちかひの

霍公鳥不念有寸木晚乃如此成左右雨奈何不来喧

ほりきこまのつばきいふあやまのこれのかくたるまでふたよのちかひの

このれかまのあやまのつばきいふあやまのこれのかくたるまでふたよのちかひの

大伴家持懽霍公鳥歌一首

何處者鳴毛思仁家武霍公鳥吾家乃里爾今日耳曾鳴

いづこになきしにけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

過つ過
二候

いづまにちよそふはよりさびしうそふはちかひのちかひのちかひの

大伴家持惜橘花歌一首

吾屋前之花橘者落過而珠雨可貫實爾成二家利

わがやどのちかひのつばきをさびしうそふはちかひのちかひのちかひの

大伴家持霍公鳥歌一首

霍公鳥雖待不来喧蒲草玉雨貫日乎未遠美香

ほりきこまのつばきあていさまのつばきあていさまのつばきあていさまの

浦のよ草のまをわきせしはかひあまふんどうも五月のむすいづ

浦のよ草のまをわきせしはかひあまふんどうも五月のむすいづ

大伴家持雨日聞霍公鳥喧歌一首

宇乃花能過者惜香霍公鳥雨間毛不置後此聞喧渡

うのさかのちかひのつばきをさびしうそふはちかひのちかひのちかひの

惜不登筑波山歌一首 惜恨の字の語

筑波根雨吾行利世波。霍公鳥山妣兒令響鳴麻志也其
つくまねふわのゆをちせむらぎもやままじことよめわらのまーやとれ

室をまなるまーやハ、とていふことハ筑波根に於て一人の、故の
ちかしくも、とていふことハ、とていふことハ、とていふことハ、
くハ、とていふことハ、とていふことハ、とていふことハ、
とていふことハ、とていふことハ、とていふことハ、

右一首高橋連蟲麻呂之歌中出 教の字の下集の字の取

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首

無暇不來之君爾霍公鳥吾如此戀常往而告社

いとまきみこころしききよほくききやわらわとてゆきそつげとて

五月

いさよふしとていふことハ、とていふことハ、とていふことハ、
ふむらとていふことハ、とていふことハ、とていふことハ、
五月之ハ坐の子の語、とていふことハ、とていふことハ、

大伴四繩宴吟歌一首 昔は防人司佐とていふ

事繁君者不來益霍公鳥汝太爾來鳴朝戸將開

ことばげみきみよきまきとていふことハ、とていふことハ、
女のものよ、とていふことハ、とていふことハ、とていふことハ、
なりて酒やとていふことハ、とていふことハ、

大伴坂上郎女歌一首

夏野乃繁見丹開有姫由理乃不所知戀者苦物乎

かつのけ、とていふことハ、とていふことハ、とていふことハ、
むらさきとていふことハ、とていふことハ、とていふことハ、

妹之見而後毛將鳴霍公鳥花摘乎地雨落津

いづみくのちしなまゝんほろぎたさなれちるまどうちよわこつ

二つのちりきりまのなまゝん花摘とのまゝ

大伴家持贈紀郎女作歌一首 目錄の作のまゝ

瞿麥者咲而落去常人者雖言吾標之野乃花爾有目八方

たぐこいささくちるぬいしとくちのまゝあはれ

半三古侍後河原多梅のまゝちるぬいしとくちのまゝあはれ

みやいしをいづれとわかせんまゝのまゝあはれ

まゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれ

よたつちのまゝあはれ

秋雜歌

崗本天皇御製歌一首

針明天皇

暮去者小倉乃山雨鳴鹿之今夜波不鳴寐宿家良思母

ゆきれをさるのやまふたきものこよひのまゝいねおけ

半九より麻のど臥鹿のこゝて雄界天皇の御製と云ふ

或本云崗本天皇御製不審正指因以墨載と云ふ小倉山ハ大和

九若等子統田の山の湖上の小藪炭やよめる山さるべ

大津皇子御歌一首

經毛無緯毛不定未通女等之織黃葉雨霜莫寒

たてしちをきりきりめををらるるわみちるまゝあはれ

わみちるまゝあはれ

藤子けこ山機霜杼織葉錦と云ふまゝ

穗積皇子御歌二首

今朝之旦開雁之鳴聞都春日山黃葉家良思吾情痛之

山上臣憶良七夕歌十二首

天漢相向立而吾戀之君来益奈利紐解設奈

あまのがをあひむきしむらてわがこひまきふさよとちりびんとをまけな

一云向河

織女の心をよめるに解まけるハ解まらざるん

右養老八年七月七日應令 後紀云元正天皇養老七年九月神

龜出八年二月改号神龜より元正天皇の御するべし

久方之漢瀬雨船泛而今夜可君之我許来益武

いさかしのあまののりせふふねうけくこちひのまきぶのわがらこひまきん

そなたよりわがまへ妹のりのがらよゆくまをうとゆるうるとハ本漢の

上ハ天字ありて瀬のふるまはるるハあまののりらふくよとハ

右神龜元年七月七日夜左大臣家 長屋王の宮

牽牛者織女等 天地之 別時由 伊奈宇之呂河

いさかしたまをさづめあめちのりのりときゆのたしりあがこ

向立 意空 不安久雨 嘆空 不安久雨

むきしむらちりむきしむらちりむきしむらちりむきしむらちりむきしむらちり

青浪雨 望者多要奴白雲雨 滯者盡奴 如是耳也

あをなみののぞみわたるあまのくむらたみむらたみむらたみむらたみむらたみ

伊伎都积乎良牟如是耳也 戀都追安良牟佐丹渥之小船

いさづきとらむむかへのやこひつあへんさよぬののよがね

毛賀茂玉纏之真可伊毛我母 一云何毛 朝奈藝雨伊可伎

もかしたまききのまのいも あはまきよい

渡夕臨雨 一云伊 伊許藝渡久方之天河原雨天飛也

わさるゆり いさかしのあまののりらふくよとあまの

天河の下の字はつるの仲の旅人

秋風之吹雨之日後何時可登吾待戀之君曾來座流
あきかぜのふりあまのひまをいつのときもまらこしきみみぞきせせ

まきあまのまらこし

天漢伊刀河浪者多多稱杼母伺候難之近此瀨宇

あまのかぎいとうがなみはたねいささういかにちのまこのせを

いささのまをいとうがなみはたねいささういかにちのまこのせを

いささのまをいとうがなみはたねいささういかにちのまこのせを

いささのまをいとうがなみはたねいささういかにちのまこのせを

袖振者見毛可波之都倍久雖近度為便無秋西安良禰波

そでふるまもかみいづくちのれはたねいささういかにちのまこのせを

いささのまをいとうがなみはたねいささういかにちのまこのせを

玉蜻蛉髻髻所見而別去者毛等奈也戀年相時麻而波
たませいらいのはのうまふらうわのれはたねいささういかにちのまこのせを

かぎらういの栴波

右天平二年七月八日帥家集會

牽牛之迎孀船已藝出良之漢原雨霧之立波

いこがのつまむしうへねこぎつらあまのかをらうまきあまのつて

あまのかをらうまきあまのつて

霞立天河原雨待君登伊往還程雨裳欄所沾

かきあまのつてあまのかをらうまきあまのつて

あまのかをらうまきあまのつて

天河浮津之浪音佐和久奈里吾待君思舟出為良之母

あまのうはらまこのかをらうまきあまのつて

こゝ吹まきりしれよあもらと 権をいけまはれしと ち二
うくまきとまきとをいふれは 詩よるをうて 其 一 其二

天皇御製歌二首 享武天皇

秋田乃穗田子鴈之鳴 闇雨夜之穗 杼吕雨毛 鳴渡可聞
あきのこのほむをかわのねやがまよのひるあしよまけり
穂よゆり田を刈を原よつひみりるほむるはほむりのとまひく夜の
わのく心とよまきもあつる我かくれいふえ

今朝乃旦開鴈之鳴 寒間之奈倍 野邊能浅茅曾色付丹来
けさのあまけかりのねましくまきしほののあまらぞいろつきまき
あまけりおめく

太宰帥大伴卿歌二首

吾岳雨掉牡鹿来 鳴先芽之花 嬬問雨来 鳴掉牡鹿

万解ハ 卅五

わのそこのふさきと きのあくまきとまきのとなつまといひまきと
まきとまきと 神芽子くおはみちれがまいたつしはさきと 甲 芽子の
まきとら 麻のう芽子原よ別中ものまれば 芽子と麻のまきとて
つまにいつ

吾岳之秋芽花 風乎痛可 落成将 见人裳欲得

わのそこのあきはまきのまかせといふとらまのあまうんいふま

三原王歌一首 倭紀勝宝四年七月甲寅中務卿後三位三原王薨

一品贈大政大臣舍人親王之子也

秋露者移雨有家里 水鳥乃青羽乃山能 色付見者
あきのつゆはうつなまけりあまづとらまのあまのやまのいろづくれは
四時よる青摺蓑摺 蓑摺はまきとあまづれは古よりあまきと
みゆあまきとまきといふとまきとまきといふとまきといふとまき

あはれなる御心はなほたのむる御心はなほたのむる御心はなほたのむる
あはれなる御心はなほたのむる御心はなほたのむる御心はなほたのむる

旋ひあふ半十一のころのせのやぶがかりとらるれ相狭丸とよあふ
これあふのよはよきひく淡路のうらまへとあはれなる御心はなほたのむる
まへに河のほとりふきあふと藤の葉まよとらるれ御心のあふと藤の葉
あふむとらるれとあはれなる御心はなほたのむる御心はなほたのむる
とらるれとあはれなる御心はなほたのむる御心はなほたのむる御心はなほたのむる
これあふとらるれの御心はなほたのむる御心はなほたのむる御心はなほたのむる
何とらるれ

呂ノ下
希ノ下

大伴坂上郎女晚芽字歌一首

咲花毛宇都呂波歌奥手有長意雨尚不如家里
さくはなもりのつらふらふらおきてあふむとらるれとあはれなる御心はなほたのむる

万解八 廿七

今持字
ヲ取

典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿禰稻公跡見庄
作歌一首 今典鑄司正一人掌造鑄金銀銅鐵之事跡見城上於今外

山村のつらふらふ神武天皇金色鷄飛來て御弓御止とらるれ御心のあふと藤の葉
鳥見とらるれ御心のあふと藤の葉

射目立而跡見乃岳邊之瞿麥花総手拵吾者持將去寧樂
人之為
あはれなる御心はなほたのむる御心はなほたのむる御心はなほたのむる
あはれなる御心はなほたのむる御心はなほたのむる御心はなほたのむる

あはれなる御心はなほたのむる御心はなほたのむる御心はなほたのむる

衛門大尉大伴宿禰稻公歌一首

鐘禮能雨無間零者三笠山木末歷色附爾家里
志とれぬあめまきくまればみのおやまもふれあまはくいらびたひさし

大和のませとゆ

大伴家持和歌一首

皇之御笠乃山能黄葉今日之鐘禮雨散香過奈牟
おほきまのみのみのやまのこみぢぢむらこの志とれぬちちのまぢぢむら

大和のませとゆ

安貴王歌一首

秋立而幾日毛不有者此宿流朝開之風者手本寒母
あきしつちていくもあねむこのねむあまのせいたかむらむも
あねむあねむあねむあねむあねむあねむあねむあねむあねむあねむあねむ

西解ハ 卅九

壊ヲ壊
ニ誤

忌部首黒麻呂歌一首

秋田前借廬毛未壊者雁鳴寒霜毛置奴我二
あきしつちていくもあねむこのねむあまのせいたかむらむも

壊と壊とては違ふべしと云ふは、あまのせいたかむらむのまぢぢむらむ

上にあまのせいたかむらむのまぢぢむらむかと云ふべし

故郷豊浦寺之尼私房宴歌三首

持統紀五寺大宮、飛鳥川原小
豊浦、推古天皇の都より、先仁紀重徳は葛城寺乃前在也、豊浦寺乃西在也、

政マシイマ

明日香河逝回岳之秋芽子者今日零雨落香過奈牟

あまのせいたかむらむのまぢぢむらむのまぢぢむらむのまぢぢむらむ

御ヲ御
ニ誤

稀ヲ稀
ニ誤

ゆきの雪大和らぬ雪をゆきたむをりよまぬ雪の影はわが影の如く
地をふあふ雪の影をゆきたむをりよまぬ雪の影はわが影の如く
たふす折の影をゆきたむをりよまぬ雪の影はわが影の如く

右一首丹比真人國人

鶉鳴古郷之秋芽子乎思人共相見都流可聞

うづりわうふちふーはよのあきをまもるももしひもちあひみつるこも

しつるゆ梅の影をゆきたむをりよまぬ雪の影はわが影の如く

秋芽子者盛過乎徒爾頭刺不挿還去牟跡哉

あきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆ

挿と不挿を挿れし一むももるいしゆあきこもるいしゆ

右二首沙彌尼等

大伴坂上郎女跡見田庄作歌二首

月ヲ日
ニ誤

妹目字始見之埒乃秋芽子者此月其口波落許須莫湯目
いでめとみそめのさきのあきをまもるももしひもちあひみつるこも

始に跡のほもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆ

ては始に跡のほもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆ

とて此の下目の字を本庄とみそめとよとては時郎女依保の坂とよとて

はたは竹田庄他あきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆ

まは竹田庄他あきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆ

まは竹田庄他あきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆあきこもるいしゆ

吉名張乃猪養山雨伏鹿之孀呼音字聞之登聞思佐

よめはりののひのよめはりののひのよめはりののひのよめはりののひのよめはりののひ

吉し本古ははるよめはりののひのよめはりののひのよめはりののひのよめはりののひ

巫部麻籬娘子鴈歌一首

吉ヲ古
ニ誤

今一守
月一

誰聞都後此聞鳴渡鴈鳴乃孀呼音乃之知左寸
たれきつてゆわきわらわかののしまよこちのゆくときら

誰うすつる之知左寸浮きまへりすとまゆききののあは月くともあひ
さるはまれ之室もき多蜘蛛在可くまうが浮ねるまんとまうくあふのこ
ゆわら都に法の候よくたれきけとるんといつそはす郡まうあひ

大伴家持和歌一首

聞津哉登妹之問勢流鴈鳴者真毛遠雲隱奈利

きつやとりのとけせまかりがねまもまるとわくくろまがくるなあり

とせまのつるこ

日置長枝娘子歌一首

秋付者尾花我上雨置露乃應消毛吾者所念香聞

あきつけばなをまのうへふちくつゆのげぬくもわをばいりゆもあも

秋つけむの秋附日夕附日のつくまゆく林子附えよの清さといそん序のこ

大伴家持和歌一首

吾屋戸乃一村芽子乎念兒雨不令見殆令散都類香聞

わのやどのいしむらとまきとありまよみせむりりちくつるあも

まきむらたのあふんしむらとまきとありまよみせむりりちくつるあも

大伴家持秋歌四首

久堅之雨間毛不置雲隱鳴曾去奈流早田鴈之哭

ひさかたのあましもおのやまがくちるまきそゆくたさわさだのうたがね

ひさかたのあましもおのやまがくちるまきそゆくたさわさだのうたがね

雲隱鳴奈流鴈乃去而將居秋田之穗立繁之所念

くもかくらたうたさかりのゆきうてるんあきたのほむらまきくくわがやゆ

田のむらまきくくわがやゆ

五首ひさしと

雨隠情鬱悒出見者春日山者色付二家利

あまこりかゝるいよせきいづれかきつぐのやふいりつりまらふけ

あまこりかゝるいよせきいづれかきつぐのやふいりつりまらふけ

雨晴而清照有此月夜又更而雲勿田菜引

あめあれてきつてつるのつよまふしつりてふれん

あめあれてきつてつるのつよまふしつりてふれん

右四首天平八年丙子秋九月作

藤原朝臣八束歌二首

此間在而春日也何處雨障出而不行者戀尔曾乎流

こゝにあつてかきつやいつくあまつみいそゆのぬはこいつぞ

あつて改むるもりのわくまふしつりてふれん

春日野雨鐘禮零所見明日後者黄葉頭刺年高園乃山

かきつあつて改むるもりのわくまふしつりてふれん

者一本夜

大伴家持白露歌一首

五屋戸乃草花上之白露乎不令消而玉爾貫物爾毛我

わづのをなちるうへの志つゆをけしむるたまよわいのあも

あつて改むるもりのわくまふしつりてふれん

あつて改むるもりのわくまふしつりてふれん

大伴利上歌一首

利上村の住むる人村上の改むる

秋之雨雨所沾尔居者雖賤吾妹之屋戸志所念香聞

あきのあめふれつるいやくはむるもりのわくまふしつりてふれん

わしけりいやはれりしんを、橋よりよりのかきく、あつゝのまき、あつゝの
しりあつゝのあつゝのあつゝ、さつゝのあつゝのあつゝのあつゝ

右大臣橘家宴歌七首

雲上雨鳴奈流鴈之雖遠君將相跡手回来津

くものうへにうらみなるかしのとむげごまきよあつゝとたかくはりまきつ

一二の白に遠くしん存のいたかくはりまきつ

雲上雨鳴都流鴈乃寒苗芽子乃下葉者黃髮可毛

くものうへにうらみなるかしのとむげごまきよあつゝとたかくはりまきつ

苗ハ信字のくま

右二首

此岳雨小牡鹿履起宇加涅良比可聞可開為良久君故爾

許曾

巨ヲ臣ニ

このをうらみなるかしのとむげごまきよあつゝとたかくはりまきつ
考十窺良布吹見山宮のゆりあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ
字あつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ
聞と又同し信り、居を考は保れらる、考十三考あつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ
考、信のあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ
此時論セ、考あつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ
巨曾倍對馬朝臣のあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ
右一首長門守巨曾倍朝臣津島
秋野之草花我未乎押靡而来之久毛知久相流君可聞
あつゝのあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ
あつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ
今時、あつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきよあつゝとたかくはりまきつ

右一首大伴宿禰書持

平山乎令丹黄葉手折来而今夜楠頭都落者雖落

ならやまをいりもあふもたはたきつてこよひのせつちらちら

いりもいりもあふもたはたきつてこよひのせつちらちら

右一首之手代人名

之一本三は依る曾武紀大倭御手代連麻呂

いりもあふ

露霜雨逢有黄葉手手折来而妹挿頭都後者落十方

つゆふあへるみちをたきつていりもあふのちらちら

いりもあふのちらちら

いりもあふのちらちら

平右一首秦許遍麻呂

十月鐘禮爾相有黄葉乃吹者將落風之隨

かみなきまきまぐれよあへるみちをたきつていりもあふのちらちら

いりもあふのちらちら

右一首大伴宿禰池主

黄葉乃過麻久惜美思共遊今夜者不開毛有奴香

わきらんのまきまぐれをみちをたきつていりもあふのちらちら

いりもあふのちらちら

右一首内舍人大伴宿禰家持

以前冬十月十七日集於右大臣橘卿之舊宅宴飲也

大伴坂上郎女竹田庄作歌二首 此より家持至姑坂上郎女竹田

庄作歌とてあり

然不有五百代小田平折亂田廬爾居者京師所念

さしあはらぬいりもあふのちらちら

御之郷
ニ誤

孝立志可重何良農ひげがきまをくしとまをくまあふふりしんをく物句よふは
て田うせよまをれびいしんかかきまを然ハ黙のほまをりあふせりしんしん
まをあふせよまをれびいしんかかきまを然ハ黙のほまをりあふせりしんしん
為一步まを積七十二歩為十代百四十歩為二十代三十五十代為一段とあり
田うせまを十六歩のほま田唐者多夫世也とも田のふせいかのこま
隱口乃始瀬山者色附奴鐘禮乃雨者零爾家良思母
こわくくのまをせのやまいろまをまをれあふふりあふふりあふふりあふふり
右天平十一年己卯秋九月作

佛前唱歌一首

思具禮能雨無間莫零紅雨丹保敬流山之落卷惜毛
まをれあふふりあふふりあふふりあふふりあふふりあふふりあふふりあふふり
あふふりあふふりあふふりあふふりあふふりあふふりあふふりあふふり

右冬十月皇后宮之維摩講終日供養大唐高麗等種種
音樂雨乃唱此詩詞彈琴者市原王忍坂王後賜姓大原真人赤麻呂
也歌子者田口朝臣家守河邊朝臣東人置始連長谷等
十數人也皇后宮ハ光明皇后ハ後紀天應元年九月授無位思坂王後立

注下とるゆ

大伴宿禰像見歌一首

秋芽子乃枝毛十尾二降露乃消者雖消色出目八方
あきそをのえししをくふおくつゆのけまげぬといろよいでめし
上ハ諸といふ序中ハ命の取人よまをれといふまをれといふまをれといふ

大伴宿禰家持到娘子門作歌一首

妹家之門田字見跡打出来之情毛知久照月夜鴨
いもがとのかきまをみんとらまをれくまをれくまをれくまをれくまをれくまをれ

ていつるかゝるべし、さき見たりく、かゝるる河まき、さき見たりく、かゝるる河
向ともへ、秋のさき見たりく、かゝるる河まき、さき見たりく、かゝるる河

大伴宿禰家持鹿鳴歌二首

山妣姑乃相響左右妻戀雨鹿鳴山邊雨獨耳為手

やまびこのあひとよむまてつまごひよかかてやまへよひとるこのあひと

いづかのうて、さき見たりく、かゝるる河まき、さき見たりく、かゝるる河

頃者之朝開爾聞者足日本菟山字今響狹尾牡鹿鳴哭

このころのあけよきけあひひきのやまをとよまて、さき見たりく、かゝるる河

哭、喪のさき見たりく、かゝるる河

右二首天平十五年癸未八月十六日作

大原真人今城傷惜寧樂故郷歌一首

位上大原真人今未後位下同六月治部少輔、さき見たりく、かゝるる河

郷ヲ御ニ誤

兼ヲ葉ニ誤

秋去者春日山之黄葉見流寧樂乃京師乃荒良久惜毛

あきされかよものやまのひみちら、わらのみやこのあさらく、さき見たりく、かゝるる河

久遠のあさらく、さき見たりく、かゝるる河

大伴宿禰家持歌一首

高圓之野邊乃秋芽子比日之曉露爾聞魚可聞

たのまのぬべのあきをこのころのあひと、さき見たりく、かゝるる河

魚とが葉を信れ、さき見たりく、かゝるる河

秋相聞

額田王思近江天皇作歌一首

君待跡吾戀居者我屋戸乃簾令動秋之風吹

きまつとわのこゝれわがやのまを、さき見たりく、かゝるる河

鏡王女作歌一首

風乎谷戀者之風乎谷將來常思待者何如將嘆
かぜと谷のこゝろをこゝろかぜをこゝろこゝろとまゐるをいひのどやげのこゝろ

右ニモ昔羅載ありと云ふにいつはハ風をこゝろを流るる何者將嘆
とかなら

弓削皇子御歌一首

秋芽子之上爾置有白露乃消可毛思奈萬思戀管不有者
あきこぎのうへにおきたるはるのけりも思まほしといつあきこぎハ
上ハ消といふん席をくまうあんよるハ死まんものといふ

丹比真人歌一首一名關

宇陀乃野之秋芽子師琴藝鳴鹿毛妻爾戀樂苦我者不益
うたのぬのあきこぎをたぬぎさく志ししつまふらうくはれはあきこぎ
あきこぎハ真人あきこぎをたぬぎさく志ししつまふらうくはれはあきこぎ

高圓之秋野上乃瞿麥之花下仕香見人之挿頭師瞿麥之
花

たのまのあまのぬののかぎてこのえさうらわみいのかぎて
かぎてこれえな

花のまのあまのぬののかぎてこのえさうらわみいのかぎて
かぎてこれえな
たのまのあまのぬののかぎてこのえさうらわみいのかぎて
かぎてこれえな
たのまのあまのぬののかぎてこのえさうらわみいのかぎて
かぎてこれえな

笠縫女王歌一首

目録よ二人新親王之女母曰田形皇女と云ふこと

天皇賜報和御歌一首 天武天皇

大乃浦之其長濱雨縁流浪寛公乎念比日

おののうらのそのあまのすまによるるをみゆつげくきとゆりよの

ひの浦ハハヤウお遠ほ程せとあつさあんのふハ席まゝ寛ハ
ゆこのゆこりつよゆくゆののりうくひんかひまこ

笠女郎贈大伴宿禰家持歌一首 贈々本賜也

毎朝吾見屋戸乃瞿麥之花雨毛君波有許世奴香裳

あさごとひわづみさやのなごこのをまよきみハあつこせぬのも
をよわせりまごこのをまよきみとまハ花まてくれ

りとりとこせぬもをまよきみとまハ花まてくれ

山口女王贈大伴宿禰家持歌一首 ちよ

秋芽子雨置有露乃風吹而落淚者留不勝都毛

あきとてふよおきたるつゆのかせよさあつるれまていごめうねつも

露の風吹て露乃風吹りてたれり

湯原王贈娘子歌一首 ちよ

玉雨貫不令消賜良牟秋芽子乃宇禮和和良葉雨置有白

露

たまのぬきけつたたらんあきををのられわらぶおたるまらつゆ

たまのぬきけつたたらんあきををのられわらぶおたるまらつゆ
みるのそくわく葉さづれさるるまニヤ平島礼をりやまのり

みるのそくわく葉さづれさるるまニヤ平島礼をりやまのり

大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首

玉梓乃道者雖遠愛哉師妹宇相見雨出而曾吾来之

たまのこのみらハとわけとるまやいもとあひみまいていぞわのち

わがこの誓ひをわけては遠くをへてははるかに思ふ女の子のむかしとて

大伴坂上郎女和歌一首

荒玉之月立左右二来不益者夢西見乍思曾吾勢思
あゝこの誓ひをわけては遠くをへてははるかに思ふ女の子のむかしとて

月ハ第月の月

右二首天平十一年己卯秋八月作

巫部麻蕨娘歌一首

吾屋前乃芽子花咲有見来益今二日許有者将落
わがやどののちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

孝十三子あまひさきさきふくせむけりあふはちりるん

大伴田村大嬢與坂上大嬢歌二首

吾屋戸乃秋之芽子開夕影爾今毛見師香妹之光儀宇

万解八 五十三

わがやどののあきのちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

わがやどののあきのちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

吾屋戸雨苗變蝦手每見妹手懸管不慮日者無

わがやどののあきのちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

わがやどののあきのちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

わがやどののあきのちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

坂上大嬢秋稻獲贈大伴宿禰家持歌一首

吾之詩有早田之穂立造有蘊曾見乍師弩波世吾背

わがまけるわがのちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

詩一本葉のちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

わがまけるわがのちぎさき花をみよきまよせいまつたのをわらわあふはちりるん

大伴宿禰家持報贈歌一首

吾妹兒之業跡造有秋田早穗乃護雖見不飽可聞

わぎしこのなもつてれるあきのこのわさびのうづらこねあのみしも

まふちのうをたまさねとよめし業もむといふうはるうさひきよひの

そとまればやちうしん

又報脱著身衣贈家持歌一首 衣々半夜をせうしん

秋風之寒比日下雨将服妹之形見跡可都毛思努播武

あきのせのさむきこのころをうまきんいもがかみしあつとまぬらん

をまればたまきんがつとらうしん

右三首天平十一年己卯秋九月往来

大伴宿禰家持攀非時藤花并芽子黄葉二物贈坂上大

嬢歌二首

吾屋戸之非時藤之目頬布今毛見壯鹿妹之咲容乎

嬢歌
二誤

わのやどのまきしんまのむづしんまもみてしんいものあまひを

あまひのあまひをぬくとあまひのあまひをぬくとあまひのあまひをぬくとあまひのあまひをぬくと

片とん

吾屋前之芽子乃下葉者秋風毛未吹者如此曾毛美照

わのやどのまきしんまのむづしんまもみてしんいものあまひを

あまひのあまひをぬくとあまひのあまひをぬくとあまひのあまひをぬくとあまひのあまひをぬくと

まびん

右二首天平十二年庚辰夏六月往来

大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌一首并短歌

叩て物乎念者 将言為便將為為便毛奈之妹與吾手携

いひみかものおもひばいんせんせんもなういひみかものおもひば

拂而旦者 庭雨出立 夕者 床打拂 白細乃

大宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首
沫雪保杼呂保杼呂雨零敷者平城京師所念可聞
あまゆきのほろろふふらけけむらのみやくおそゆるも
ひらひら雪もまねとあまの国く班らんをまもくよまもくよまもくよ
入のハハゆね

大宰帥大伴卿梅歌一首

吾岳雨盛開有梅花遺有雪乎亂鶴鳴

わづをふふささるるけけらうめのみまのそれるゆきとまもく入つるも

角朝臣廣辨雪梅歌一首

雄畧紀小廣火宿祢後紀小弓宿祢喪來
時獨留角國是以大連為奏於天皇使留居于角國是角臣等初居角國而
大名角臣自此始也といふ辨日原云辨云

大宰帥大伴卿梅歌一首

沫雪雨所落開有梅花君之許遣者與曾倍氏年可聞

あまゆきのほろろふふらけけむらのみまのきふがらやらばよまもく入つるも

梅の雪をもちりてはらば梅の雪をもちりてはらば梅の雪をもちりてはらば

安倍朝臣奥道雪歌一首

後紀室龜五年後四位下まき卒といふ
棚霧合雪毛零奴可梅花不開之代爾曾倍而谷將見

たききくひゆきくひゆきくひゆきくひゆきくひゆきくひゆきくひゆきくひゆき

棚のあまの雪をもちりてはらば梅の雪をもちりてはらば梅の雪をもちりてはらば

よまもく入つるも

若櫻部朝臣君足雪歌一首

履中紀三年長真贈連本姓と稚櫻部
造と政より又ゆ

天霧之雪毛零奴可灼然此五柴雨零卷手將見

あまぎくひゆきくひゆきくひゆきくひゆきくひゆきくひゆきくひゆきくひゆき

誤灼
フ炊ニ

如今心宇常雨念有者先咲花乃地雨將落八方

いまのこころをこころとつねに咲けりてはまづさくは花のつちふれちるも

空をこころの雨とまよふまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

は雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

あまのこころ

大伴坂上郎女雪歌一首

松影乃浅茅之上乃白雪乎不令消将置言者可聞奈吉

まつげのやまももろのうへのさくゆきとけしむておのんこころのまよふ

影の傍にまよふ言のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

言のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

まよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

冬相聞

三國真人人足歌一首

高山之管葉之努藝寒雪之消跡可曰毛戀乃繁鷄鳩

たのやまのこころのけぬぎよるゆきのけむいさしこのまよふは

まよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

けむいさしこのまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

大伴坂上郎女歌一首

酒杯爾梅花淳念共飲而後落去登母與之

せいのやぶさうめのはなをうけしむらみくれのまよふは雨のまよふは

雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは雨のまよふは

和歌一首

まきんしつろくちびくちりきいさちん

大伴田村大娘與妹坂上大娘歌一首

沫雪之可消物乎至今流經者妹雨相曾

あさゆきのけりべきりのといまがふたがらぬるいふふありんとぞ

ほそのちりつとるくちびくちりきいさちん

ほののり

大伴宿禰家持歌一首

沫雪乃庭雨零敷寒夜乎手枕不纏一香聞将宿

あさゆきののみそふりてまよふをたもくまのいしりかゆゆん

あつち枕かき

萬葉集卷第八

010190519193

